

令和5年度の取組

レガシー⑤誰もが文化芸術に親しんでいるまち

1. 今年度の主な取組

■インクルーシブ音楽プロジェクト

時期：令和5年度中

対象：市民、学校・施設、音楽・ダンス・身体表現・アート関係者など
 目的：市制100周年プレ事業として、「いろいろねいろ」をキーメッセージに音楽を通じて多様性や包摂を楽しみながら感じられるプログラムを実施することで、かわさきパラムーブメントが目指す共生社会への理解につなげる

成果：様々な方がワークショップやライブを通じて交流し、本市が目指す共生社会の実現に向けた象徴的な取組となった（詳細は別紙参照）。



■「Colorsかわさき展」の開催

時期：令和5年11月10日(金)から11月19日(日)

対象：障害者福祉施設や特別支援学校

目的：障害の有無にかかわらず、作品の魅力を伝える
 絵画展を開催し、出張指導による出展者の支援や、商業施設への巡回展、インターネットでの作品公開、ワークショップなどの開催により来場者の理解を深める。

成果：障害のある人もない人も共に文化芸術活動に取り組むことのできる環境づくりを進めることができた。（公募出展者149名）



■東京交響楽団市内巡回公演の開催

時期：令和5年9月13日(水)、11月28日(火)、12月19日(火)、12月20日(水)

対象：障害者施設、児童養護施設、病院、特養老人ホーム等

目的：本市のフランチャイズオーケストラである東京交響楽団のメンバーが、市内巡回公演を行うことで、音楽に接する機会の少ない方、コンサートホールに足を運ぶことが難しい方等にプロの音楽家による良質な音楽を鑑賞する機会を創出する。

成果：対象施設の要望や特性に応じて、参加者が歌ったりリズムをとったりできる曲を演奏することにより、多くの市民に身近に文化芸術に触れる機会を提供することができた。



■パラアート推進公募事業の実施

時期：令和5年度7月～2月

対象：障害のある市民をはじめ、どなたでも

目的：障害の有無に関わらず文化芸術に取り組む機運の醸成、並びに未来へつながる才能の育成と発掘を目指す。

成果：初めてパラアートに取組む3団体を含む計6団体が、総計500名超の市民に音楽やアートの鑑賞及び体験の機会を提供できた。



■アートを介したコミュニティ形成事業

時期：令和5年度以降（令和5年度は参加者の募集と企画・準備）

対象：アートやコミュニケーションに関心があり、積極的に学び市内で活動する意欲のある人。

成果：障害のある方も参加者募集フォーラムや、プログラム参加者募集にも、参加することができる機会を提供できた。



2. 令和6年度の取組の方向性

■現在の状況

◎「令和5年度かわさきパラムーブメント意識調査」の結果では、社会的マイノリティが文化芸術に携わる、鑑賞する際にバリアがあると感じている人の割合は、前年調査に比べ3.5ポイント減少し良くなっている。

※バリアを感じている方の割合 今回調査：47.0%（前年調査：50.5%）

■方向性

・意識調査では一定の改善が見られるものの、引き続き取組を進めていく必要があることから、文化芸術活動が障害者の社会参加を促進する有力なツールの一つであることを認識し、障害の有無に関わらずインクルーシブ環境としていくことを目指し、障害者みずから文化芸術活動を行う「する」と、鑑賞する「見る」の2つの面で取り組んでいく。

■アドバイザーの意見を活かした各種文化関連事業の改善の取組

令和5年度にアドバイザーに複数の事業（インクルーシブ音楽プロジェクト、「Colorsかわさき展」ワークショップ、パラアート推進公募事業）を視察していただき、パラムーブメント推進の観点からの意見や提案を踏まえ、各区役所など部会員が所管する文化関連事業の中で、改善の可能性について検討を行い、多くのコミュニティを繋ぎながら、引き続き多彩で多くの方々に参加できる「アート・フォー・オール」の実現に向けた取組を進める。

【アドバイザーの意見】

- ・インクルーシブ音楽プロジェクトで実施した音楽ライブについて、企画に新しい面白さが生まれていて、ミュージシャンの人選も、ベテランと若手のバランスが大変素晴らしいと感じた。障害を持っている方たちが自ら表現する場に立ち、トーク、映像、音楽を通して多彩な自分らしい方法で伝える機会をつくれた。
- ・活動によって伝えたいことをより効果的にすることのできるスタッフ（コーディネーター）の育成ができるとうい。
- ・社会貢献的な枠組みの中で、異なるセクター同士が関わることが良かった。
- ・特別支援学校や特別支援学級への呼びかけについてはとても良い。そうした声掛け、環境づくりは大切。今後も継続してほしい。

3. 市民等の意見聴取

令和5年度に引き続き、複数事業を視察していただき、アドバイスを受け、フィードバックにつなげるなど、アドバイザーの柔軟かつ効果的な活用を想定している。

【想定アドバイザー】

- ・須藤 千佳 氏（British Councilアーツ部長）
- ・小川 智紀 氏（神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター）
- ・田中 真実 氏（神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター）

1 プロジェクトについて

- ・かわさき組曲（2021年）、かわさきBRIDGEオーケストラ（2022年）での音楽づくりの経験を昇華し、2024年の市制100周年記念プレ事業として、「他者と共に生きる」都市を体現するインクルーシブな音楽プロジェクトとして展開。
- ・「いろいろねいろ」をキーメッセージにワークショップ、人材育成講座、音楽ライブを多数開催。音楽を通じて多様性や包摂を楽しみながら感じられるプログラムを実施。
- ・プロジェクトへの参加を通じて、かわさきパラムーブメントが目指す共生社会づくりへの理解につなげていく。

2 今年度の成果について

- ・ワークショップ、人材育成講座、音楽ライブの3事業を実施し、**3,000人以上**がプロジェクトに参加。
- ・音楽を通じて、多様性や包摂を感じることで、かわさきパラムーブメントが目指す共生社会の実現に向けた取組を実施した。

(1) ワークショップ

16か所で開催、約2,500人が参加



小学校(特別支援学級)でのワークショップ
児童が思い思いに音をたないだ



特別養護老人ホームでは入所者や
近隣住民が元気に合奏を楽しんだ



重症児放課後等デイサービスでは
最後にジャムセッションを行った



久本・末長・坂戸小学校の3校共同
寺子屋でのワークショップ



市民祭りでは世界ゆるミュージック
協会による「ゆる楽器」体験も



スポーツイベントでのワークショップに
SOCIALWORKEERZ
(ソーシャルワーカー)がコラボ参加

- ・小学校(通常の学級・特別支援学級)、居住地校交流、障害・高齢者施設、児童養護施設、地域の寺子屋、市民祭りやファミリースポーツ縁日、colorsかわさき展など、様々な場所で音楽を通じた混じりあい体験するプログラムを実施。
- ・ファシリテーターは音楽家だけでなく、ダンスやゆる楽器など、他分野の人材とのコラボ企画を多数開催するなど、様々な主体との連携を積極的に行った。

(2) 人材育成講座

5回開催、100人以上が参加



特別支援学校・特別支援学級教員
を対象とした講座を開催



音楽経験がなくても「これなら自分にもでき
そう!」と自信をつけてもらえるプログラムも



レゴブロックを使って、各自のインクルーシブ
のイメージを共有・相互理解する講座も

- ・外国人、音楽関係者、教員、福祉施設職員向けなど、多分野の人材育成講座を開催し、**100人以上**が参加。
- ・教育委員会事務局、川崎市国際交流協会、こすぎの大学、ミューザ川崎シンフォニーホール、川崎市文化財団と積極的に連携して、研修を共同開催するなど、コラボ企画を多数実施した。

(3) 音楽ライブ

2回開催、参加者・観客合わせて600人以上が参加

① いろいろねいろJAM (2023年10月15日 ルフロン1階イベントスペース)

- ・かわさきジャズと共催し、商業施設の広場で演奏するインクルーシブな音楽ライブを開催。
- ・ブリテッシュ・カウンシルの協力のもと、英国の「ドレイク・ミュージック」のベン・セラース氏を招聘し、日本人ミュージシャン6名、一般公募者20名とともに障害・楽器・音楽経験のあるなし、プロ・アマ、音楽ジャンルの垣根をこえたセッションを行った。
- ・本番前日には参加者一人一人が持っている創造性や、誰もが自由なイマジネーションを発揮できる、体験型の音楽創造ワークショップを行った。

撮影：Taku Watanabe



ベン・セラース氏によるワークショップでは
様々な楽器、声、体を使い音楽を楽しんだ



誰もがありのまま楽しめる
音楽づくりを目指した



日本人ミュージシャンによる
グループワークショップ



冷たい雨が降る中、川崎駅前
約400人の観客が集まった



会場が一体となった
KAWASAKIのコール&レスポンス



小学生～シニア、障害・楽器経験のある
なしに関わらず多様なメンバーが参加

② いろいろねいろまつり (2024年2月17日 高津スポーツセンター)

- ・高津区役所と連携し、同区役所が主催する、子どもからシニア、障害のある方々、家族も一緒に、誰もが一緒に楽しめるイベント「スポーツインクルージョン縁日」のフィナーレコンサートとして開催した。
- ・日本人ミュージシャン5名、一般公募者23名とともに、障害・楽器・音楽経験のあるなし、プロ・アマ、音楽ジャンルの垣根をこえたセッションを行った。
- ・本番当日には参加者一人一人が持っている創造性や、誰もが自由なイマジネーションを発揮できる、体験型の音楽創造ワークショップを行った。



視線入力による楽器演奏を
ファシリテーターがサポート



参加者一人一人に光を当てる
ソロパート



いろいろねいろJAMのリピーターや
ワークショップ経験者も多数参加

3 2024(令和6年)度の方向性

- ・川崎市市制100周年記念事業として、引き続き、市内全域でワークショップ、人材育成講座、音楽ライブを展開していく。
- ・教育委員会事務局、かわさきジャズやブリテッシュ・カウンシル、川崎市文化財団など様々な団体と連携し、コラボ企画を開催するなど、多様な主体との連携を積極的に推進する。
- ・ファシリテーターは音楽家の他、ダンスや身体表現、アートなど、多くの分野の人材を巻き込んでいながら、かわさきパラムーブメントの世界観を体感できるプログラムを生み出していく。